

# 「俺らについて」における宗教文字について

この文章は3人称形式である。以下では、彼（教祖）は「俺らについて」に関する宗教文字を提示する。信仰者は彼が提示した文字を使用する。文字には、音声に対応した単なる抽象的な記号と音声を発する操作を表現する文字と音それ自体を表現する文字がある。

aは記号である。機械の説明書は操作の表現である。忍者の術における印もそれである。振動数は音それ自体である。俺はそれぞれを「抽象文字」と「操作文字（印文字）」と「音文字」と便宜的に呼ぶ。

以下では、彼は操作文字のような宗教文字を便宜的に提示する。彼は口の形や舌の位置を表現して、操作文字もどきを提示する。彼は信仰者が説明書通りに、または楽譜通りに口を動かせば、信仰者が話すことができるように文字を創造したいように見える。同時に、彼は音声それ自体を自然界の振動数などに対応させて、普遍的な文字を創造したいように見える。

## 宗教文字（操作文字）

彼は次の文字を母音に対応づける。aは○である。iは一、または＝である。uは・である。eは▽である。oは□、または口である。いっはiである。いはi（＝）の上に一である。いの強調i'はiの上に^である。二重母音は○一の上に（を時計回りに90度回転させた記号を使用する。

彼は次の文字を子音に対応づける。sはインテグラルのような記号∫である。tはLの逆、または対応記号やガンマ関数Γのような記号である。kはLである。fはキリスト教のような十字架である。pはkである。

彼は次の文字を子音に対応づける。rはレである。lはレの上下鏡像である。mはくである。nは>を少し時計回りに回転させたような鼻の形である。